



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2012年2月受診者数：3339人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

1. 発熱 : 2664人 (2445人)
2. 咳 : 1539人 (124人)
3. 鼻汁 : 1188人 (7人)
4. 嘔吐 : 533人 (221人)
5. 発疹 : 468人 (25人)

疾患頻度

1. インフルエンザ : 1347人
2. 急性上気道炎・咽頭炎 : 927人
3. 感染性胃腸炎 : 370人
4. 気管支炎・肺炎 : 140人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 77人



今月のワンポイント！

未曾有の大災害となった東日本大震災から早や1年が経ちました。われわれ神戸大学こども急性疾患学のメンバーも被災地に診療支援に訪れ、現地での惨状を目の当たりにしました。被災地のみなさまは復興に向けて頑張っていると思いますが、福島原発の問題などあり、まだまだ日常を取り戻すには時間がかかりそうです。被災地の一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

さて、神戸こども初期急病センターの2月の総受診者数は3,339人でした。その中で受診理由として最も多かったのは発熱で2,664の方が受診されましたが、そのうち1,347人はインフルエンザウイルス感染症でした。型別ではA型が680人、B型347人で、だんだんとB型の割合が増えています。3月になってもまだインフルエンザの流行は続いていますので、手洗いやうがいなど体調の管理にはどうぞご注意ください。その他、インフルエンザ以外の上気道炎が927人、感染性胃腸炎が370人となっていました。

3月も下旬となりました。まだ肌寒い日もありますが、日中は暖かい日も多くなりだんだんと春が近づいています。季節の変わり目となるので、アレルギー性鼻炎（花粉症）や気管支喘息などの病気にかかりやすくなります。2月中に来院された気管支喘息の患者数は77人でしたが、今後増加してくるものと思われます。気管支喘息は夜間睡眠時などに喘鳴がひどくなりますが、お子さんが夜間にゼーゼーし始めたときは、①体を起こして軽く背中をたたく（痰を出してあげる）、②部屋の空気を入れ換える、③水分を少し摂らせてあげる、などしてあげると楽になります。それでも喘鳴がひどいときは遠慮なく急患センターにご相談ください。

